

ニュース 真相究明

長生園不明金事件の真相を究明する会

2022年5月22日発行・特別号

〒622-0015 南丹市園部町木崎町上ヲサ 29-3

船井地労協内 Tel 0771-62-1611

事務局直通（山岡）090-1132-8823

Eメール choseienhumeikin@gmail.com

「再審法改正をめざす口丹波の会」結成総会(2022.1.29)、 西岡廣子さんの訴えです



心って厄介なものやと思います。

いつも11月がくると逮捕されたこと、寒い拘置所の中にいたこと、取り調べのこと、いろんなことが頭の中によみがえってきます。

これはやっぱり自分が乗りこえなくちゃあいけないのですが、雪がちらちらしていたら、寒かった拘置所で週に二回買える紙コップのコーヒーを飲みたいために買うのではないんですね。

手を温めたい、その暖かさが欲しくて買う、そんな思いをしたこと、いろんなことが頭の中に巡ってきます。

死ぬまで自分が頭の中を離れることはないだろうなと思いつつ生活をしています。見た目は普通に生活しているんでしょうが、やっぱり心はやっぱりなあとつくづく思っています。

再審の道はほど遠いですが、自分の再審実現と、再審法改正運動をともに進めていきたいと思っています。

ニュース「真相究明」に毎号掲載している西岡廣子さんのエッセー 「園部の町から」(2021年11月・第23回)です。

園部の町から(二一三) 西岡 廣子

暑かった夏も終わり、山や公園の木々が美しく色づく季節になりました。

横領の犯人に仕立て上げられてから22年の月日が経ちました。長生園に勤務していた12年間、与えられた仕事を一生懸命真面目に取り組んできました。1999年3月、不明金問題が私の生きがいであった職場を地獄に変えました。信じていた家族同然の仲間たちから犯人扱いされるとは夢にも思いませんでした。人のすることかと思うような酷い仕打ちを受けました。死をもって身の潔白を証明しようとするまで精神的に追い詰められました。

救ってくれたのは主人や子供達でした。家族がいなかったら、私は今、こうして生きていなかったと思います。私と主人は、園部警察、労働基準局、京都府などに不明金の調査を訴えて回りました。訴えれば必ず分かってくれると信じていたからです。しかし「野中」の名前を聞くと、どこでも曖昧な対応しかしてくれませんでした。

11月10日、園部署の警察官が6名家にきました。「やっと来てくれた」私の偽りのない一言でした。これで疑いが晴れる、その思いで任意同行に応じました。正義の味方と信じていた警察は、私を頭から犯人扱いで、連日ひどい取り調べを受けました。権力を傘に着て、野中に逆らうのかと脅しました。

長い年月が経ち、傍目には普通に戻ったように見えるけれど、毎年この日が来ると体調が悪くなる。でも次回は、どんな取り調べを受けたのか勇氣を出して書きます。コメの収穫も終わり、玉ねぎや苺の植え付けに忙しい今日この頃です。

(二〇二一年十一月)

ニュース「真相究明」に毎号掲載している西岡廣子さんのエッセー 「園部の町から」(2022年2月・第24回)です。

園部の町から(二十四) 西岡 廣子

新型コロナウイルスが依然として猛威を振るう中、皆さまお変わりありませんか。先日は、「大崎事件と再審法」を学ぶ講演会に多くの方が参加して下さりありがとうございました。鴨志田先生のお話を聞きながら、原口さんとお会いした遠い昔を思い出していました。原口さんは94歳です。命のあるうちに再審無罪ぜひ勝ちとって欲しいと心から思います。

1999年11月10日、任意同行について行ったこの日から、128日間の長期拘留と自白強要の地獄の日々が私を襲いました。私が園部警察署でどのような取り調べを受けたかをお話します。

「利用者負担金欄の書き換えを認めろ」、私が「書き換えていない」と言うと「筆跡鑑定も済んでいるのにいい加減にせんか!」と声を荒げ机をドンドン叩きました。そして「長男の縁談が決まっているらしいなあ、お前がそれを認めへんのやったらお前の夫は同和地区出身やろ、相手にそのことをぶちまけて縁談を壊してやる」と口汚くののしられました。

その時のショックは言葉では言い表せません。こんな思いは私だけでなく皆さんや。墓場まで持って行くかと思いましたが。私の心に大きな傷となって残りました。取り調べの警察官は、「認めるんやったら、町長もこの1件だけで他は無しにすると言っている。一緒に園に行ってくださいや。夕方には家に帰したる」と甘い言葉を投げかけてきました。私は、「一円も取っていません」と容疑をきっぱりと否認しました。途中「トイレに行かせてほしい」と頼んだら、「供述調書に署名したら行かせてやる」と言われ、狭い取調室の中、罵声を浴びせられ、いつ終わるか分からない恐怖の中、長男の縁談の事を持ち出され頭の中は真っ白になりました。混乱した中で内容もよく分からないまま署名をしてしまいました。この事が、後々有罪の決め手となり命取りになりました。今日はここまでとします。

コロナ感染症が収まらず、まだまだ寒い日が続きます。お身体ご自愛ください。
(二〇二二年二月)

今年には西岡廣子さんが園部警察署(当時)に不当逮捕されて23年になります。逮捕当時、警察で受けた取り調べの実態を「園部の町から」に生々しく書いていただいたものを、ニュース「真相究明」特別号としてまとめました。ぜひお読みください。

下の写真は本年1月29日に行った国道9号線宮町交差点でのアピール行動です。

